

教員名	水村(久埜) 真由美 (KUNO MIZUMURA Mayumi)
所属	文教育学部芸術・表現行動学科舞踊教育学講座
学位	教育学博士 (1997 東京大学)
職名	助教授
URL/E-mail	http://buyou1.li.ocha.ac.jp/Mizumura/HTML/index.html/ mani@c.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

舞踊動作の科学 / 子どものからだ / 柔軟性のメカニズム / 女性のライフスタイル /

◆主要業績

総数 (16) 件

- ・「舞踊の中の身体」(水村真由美、衛藤隆共著) 2005, 武藤、衛藤、山本編、『新身体教育論』㈶放送大学教育振興会、東京、pp.138-152.
- ・「舞踊動作にみられる手と足の動きの表現性」2005, バイオメカニクス研究, 6(2), pp120-128.
- ・「小学生児童の身体組成と体力特性」水村(久埜)真由美,吉田真咲,田中真実子,瀬田亜耶子,春山知子,横山善実,栗原知子,石塚諭,高木悦子,金久保成美,小林稔共著) 2005, 人文科学研究、第2巻, pp125-139

◆研究内容

2005年度の研究テーマは以下の3つが主要な研究テーマであった。

1. 柔軟性の機能的意義に関する研究
2. 舞踊動作の動作解析に関する研究
3. 子どもの身体諸機能に関する研究

テーマ1は2006年度までの2カ年で科研費採択により取り組みテーマで、柔軟性の向上に寄与する生理学的バイオメカニクスの適応現象を、慢性および一過性の適応の両面から検討するものである。本年度は基礎的なデータ収集を行い来年度の実験に続ける。また今までのデータの一部を日本トレーニング科学会カンファレンスのシンポジウムにおいて「芸術系スポーツにおける柔軟性」として発表した。テーマ2は、私が修士論文のときから継続している研究テーマであり、今年には特にバレエを中心とする西洋の舞踊の足および手の動作を人文科学的な資料を用いて考察する一方、舞踊にみられる跳躍動作のパフォーマンスに関する研究を動作解析により行った。また研究成果を国際ダンス医科学会議において発表した。

テーマ3では本学着任以降、附属小学校のからだ部と連携して行っている小学生児童の体力変化に関する縦断的な調査を行った。またこうした研究調査のデータを基に学校教育における体育および舞踊教育の役割について検討した。今年には琉球大学との共同研究で離島の子どもたちの身体および健康づくりに関する調査も行った。

◆教育内容

学部では、コアにおいて「健康スポーツ実習(軽運動)」と「スポーツ科学概論(半分回を担当)」を担当した。軽運動では、通常の体育授業が疾患などの理由により行えない学生に対しストレッチングなどの実技を指導した。スポーツ科学概論では、スポーツ科学領域の基礎的な学問体系と競技スポーツへのその応用について概説した。専門科目としては、「動作学」「解剖学」「生理学」「動作学実験演習」「表現行動論」「舞踊・運動科学研究法入門」を担当した。いずれも人間の身体の機能および身体動作の科学的解析方法を学ぶうえでの基礎的な知識をみにつけるための講義であった。また実験実習においては、バイオメカニクスおよび運動生理学の手法を使って身体運動の成り立ちや運動中の生体反応を実際に調べる実習である。

博士前期課程では、「表現行動科学実習」を担当し、舞踊動作の科学的な成り立ちに関する英著を輪読した。

博士後期課程では、「舞踊分析論」を担当した。

なお研究室所属院生が、日本体育学会にて2演題、日本体力医学会にて2演題、それぞれの研究テーマで研究発表をし、その指導を行った。

◆Research Pursuits

Research project in 2005 was consisted of three main areas.

- 1) Functional significance of flexibility in human
- 2) Biomechanical characteristics of dance movements
- 3) Physical fitness and health status in elementary school children.

1) was granted from JSPS as Kakenhi and this study will continue until next year. In 2005, we had taken basic data for determining flexibility using ultrasound apparatus. 2) was long-term research project for our laboratory. In 2005, we focused on the biomechanical characteristics of the arm and the leg movement in dance. 3) was collaborative studies with teachers of elementary school attached to Ochanomizu university. We also investigate the physical characteristics of children living in iriomote island in Okinawa.

◆共同研究例

- ・ 5. 中山隼雄科学財団研究助成「ダンスが中高年女性の全身反応時間に及ぼす影響ーリズムミクな動きを模倣する点に着目してー」2000, 80万円/1年
- ・ 明治生命体力事業財団研究助成「柔軟性の機能的意義」2001, 100万円/1年
- ・ 中富健康科学財団留学助成
「日豪の生活習慣の違いが運動による酸化ストレスに及ぼす影響」2002, 100万円/1年

◆将来の研究計画・研究の展望

舞踊を中心としたさまざまな身体運動による人間の身体諸機能の可塑性を検討するとともに、熟練した舞踊動作、いわゆる芸術性の高いと評される運動の成立のメカニズムを解明したいと考えている

◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

- ・ 舞踊動作の身体運動としての可能性（昨年度、厚生労働科研に応募するが不採択）
- ・ 芸術的動作成立のメカニズム
- ・ 子どもの健康および体力に関する研究（これは子どもやフィットネス、スポーツに関わる企業との共同研究が可能と考える）

◆受験生等へのメッセージ

人間の行う動きは非常に複雑で巧みです。その動きや動きを起こす身体のしぐみに興味をもって地道に研究を続けられる若い人たちと一緒に研究をしたいと思っています。私が所属するコースは、国立大学法人唯一の舞踊を専攻することのできるコースです。またその中であって、私は唯一自然科学系の学問領域から、舞踊やスポーツ、さまざまな運動を対象として、研究を行っています。「舞踊を科学」してみたい人にとっては、まさに日本で唯一の教育環境といってもいいでしょう。

また働く女性とし、母として、女性のライフスタイルと運動や健康に関しても大きな興味をもってしています。エネルギー溢れた女性のライフスタイルをサポートする研究を一緒に行ってみませんか？

